



大宮駅周辺

さいたま市の都心、東日本の玄関口として発展。東口エリアで初の再開発事業を公共施設再編による「連鎖型まちづくり」の一環として進めました。



撮影：石黒写真研究所

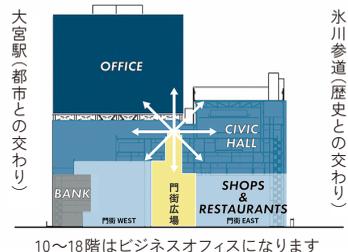
大宮門街(オオミヤカドマチ)

歴史と文化を受け継ぐ新しい複合施設

令和4年4月、大門町2丁目に、オフィスや商業施設、銀行、市民ホールなどの複合施設が誕生。デザインに路地道などの地区の特徴を取り込み、門街広場で施設の機能が立体的に交差しています。門前町「大門」の特徴が凝縮された施設の名称には、駅から氷川神社へと続く「門」であり、くらしを楽しむための「街」でありたいという想いが込められています。



COMPLEX 多様な機能が門街広場を介して立体的にクロスする



門街広場



過去の関連記事はこちら



撮影：石黒写真研究所

RaiBoC Hall 市民会館おおみや

木の温もりに包まれた文化芸術発信の場

「市民会館おおみや」が大宮門街内に移転し、「RaiBoC Hall」の愛称で生まれ変わります。大ホール、小ホールに加え、展示室や集會室、スタジオなども整備し、氷川参道の自然をイメージした落ち着いた温もりのある内装としています。



大ホール

大宮区役所

絹糸を纏ったようなやわらかな外観

老朽化が進んだ大宮区役所が県大宮合同庁舎の跡地に移転し、令和元年にオープン。製糸で栄えたまちにちなんだ外観が周辺の自然に溶け込み、やさしく市民を迎え入れてくれます。2、3階には、大宮図書館も移転しています。



再開発など

都市の機能性や居住性を向上し、安全・安心で魅力あるまちづくりを実現するため、道路等をはじめ、地域の核となる商業・業務施設や公共・公益的施設、住宅施設などの建設を進めてきました。

浦和駅周辺

県庁所在地であるほか、文教都市としてふさわしい風格と調和した都市機能を持つまちを目指し、大規模な整備を行いました。



浦和駅周辺

過去の関連記事はこちら



鉄道高架化

中ノ島地下通路



Before

東口駅前

市民のくらしをより便利で豊かなものに

駅前交通広場や市民広場が整備され、中央図書館、市民活動サポートセンター、コミュニティセンターなどを含む公益施設「コムナーレ」や、店舗、シネマコンプレックスなどの商業施設がある再開発ビルが平成19年にオープン。これらの生活に豊かさをもたらす公共施設と商業施設が融合する地下4階・地上10階建てのビルは、浦和駅東口のランドマークとなり多くの市民に利用されています。



東西の移動の円滑化

駅周辺のまちが一体化

平成25年の鉄道高架化と東西連絡通路の開通、都市計画道路田島大牧線の拡幅、平成30年の中ノ島地下通路の開通などにより、移動の円滑化とともに、東西に分断されていたまちの一体化が進みました。



Before



田島大牧線

武蔵浦和駅周辺

交通便利性の高い市の副都心地区

駅東西の駅前交通広場、都市計画道路、歩行者デッキ等の整備をはじめ、住宅、商業・業務などの多様な機能が集積する複合建築物の建設を進めてきました。平成25年には南区役所、図書館、コミュニティセンターなどが入る複合公共施設「サウスピア」が完成し、駅西口から歩行者デッキで直結するなどバリアフリーにも配慮しています。



過去の関連記事はこちら



都市計画道路内谷別所線



サウスピアに直結する歩行者デッキ



東口交通広場、ライブタワー(右)、ミュージシティ(中央)